

出典：福生市教育委員会リーフレット「小学校入学前のお子さんの保護者の皆様へ」

一人一人の状況に応じた支援を進めていくために①

～発達障害の理解と対応～

1 特別支援教育は、子どもの可能性を最大限に伸ばすことを目指します

「特別支援教育」とは、「幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う教育」のことです。

特別支援教育を推進していくためには、教員や保護者を含めて、より広く、より多くの人々の理解が重要です。このリーフレットでは、特に小学校入学前からの対応が望まれる「発達障害」について紹介します。子どもたちの中には、親子の関係の中では極端な問題がなかったのに、幼稚園や保育園等の集団生活の場面で、友達や先生とうまくコミュニケーションがとれなかったり、突飛な言動を抑えることができない子もいます。例えば、次のような状況を示す子です。

- 遊びのルールや順番を守れずに、友達とのトラブルになってしまうことが多い
- 言葉での指示が極端に伝わりにくい
- 周囲の活動の流れとは無関係に、一人遊びをいつまでも続けてしまう
- 何かの都合で予定が急になると、どうしてもそれを受け入れることができない
- 絵本の読み聞かせを聞いているとき、じっと座っていることができない
- 集中して一つのことに取り組める時間が、極端に短いなど

2 専門家の的確な診断に基づく、その子にあった対応が必要です

こうした子どもたちの中には、「発達障害」がある場合も考えられます。発達障害のある子どもたちは、自分の行動や言動を注意されたり叱られたりしても、自分だけでは改善することができずに心が傷付いたり、どうしたらいいのか子ども心に困っていたりすることがあります。

発達障害は、なるべく早い段階で保護者や教員、保育士等がその状態や状況に気付いて、専門家による的確な診断に基づくその子にあった対応をしていくことが大切です。何らかの特別な支援や配慮を始めていくことで、子どもたちが感じている困難さを減らしていくことが可能です。そのために、周囲の人の温かい理解を図ると「」もに、教育、保健・医療、福祉等が連携して取り組んでいきます。

3 一人で悩まず、早めに専門家に相談しましょう

発達障害の原因はまだよくわかっていませんが、現在では脳の機能障害と考えられていて、小さい頃からその症状が現れているとされています。

発達障害の疑いに早期に気づき、専門家と相談することで、子どもに合った適切な療育を受けることが重要です。小学校入学前の療育や学校での教育により、自分らしく成長し、より良く生きる力を身に付けていけるよう支援をしていきましょう。

発達障害にかかわらず、お子様の子育てにあたって何か心配なことがありましたら、教育委員会では、相談窓口を用意していますので、どのようなことでもお気軽にご相談ください。

出典：福生市教育委員会リーフレット「小学校入学前のお子さんの保護者の皆様へ」

一人一人の状況に応じた支援を進めていくために② ～発達障害の理解と対応～

4 すべての学校で実施する特別支援教室

特別支援教育は、特別支援学校や特別支援学級に在籍する幼児・児童・生徒だけではなく、小・中学校の通常の学級に在籍する発達障害のある児童・生徒や小学校入学前の幼児等も対象になります。平成19年4月から、「特別支援教育」が学校教育法に位置付けられ、すべての学校において実施することとなりました。

5 発達障害とは？

平成17年4月に施行された発達障害者支援法では、「発達障害」を「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能障害こころはんせい害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」と定義しています。

発達障害は、アンバランスな様子が周囲の人に理解されにくい障害です。近年では、発達障害の特徴のある人はまれな存在ではなく、ごく身近にいることが指摘されています。

下の3つの例は、発達障害の一般的な特徴ですが、個人によっても様々です。

予定が急に変わると、とても混乱するAちゃんの例

急に予定が変わったり、初めての場所に行ったりすると、不安になり、動けなくなることがよくあります。そんなとき、周りの人が無理に促すと余計に不安が高まって、突然大きな声を出してしまうことがあります。

Aちゃんのようなタイプの子は、**広汎性発達障害(自閉症・アスペルガー症候群等)**こころはんせいいと呼ばれる発達障害がある可能性があります。

忘れ物や不注意が極端に多いBちゃんの例

幼稚園で使う自分の道具の整理ができません。席にじっと座って先生の話を聞くことが苦手で、他のことに注意が移ってしまいます。遊具などで遊ぶ順番を気にせず、すぐに遊具を使っています。

Bちゃんのようなタイプの子は、**注意欠陥多動性障害(AD/HD)**と呼ばれる発達障害がある可能性があります。

読み聞かせを楽しめなかったCちゃんの例

幼稚園で先生が絵本の読み聞かせをしてくれるとき、Cちゃんは楽しめません。お話のあらすじが、一度ではよくわからないからです。登場人物の名前を混同したり、地名を聞いても頭に入らないのです。

Cちゃんのようなタイプの子は、**学習障害(LD)**と呼ばれる発達障害がある可能性があります。学習障害のある子は、「文字を読めない」「文字を読めても書けない」など一部の学習に困難さをもつ子がいます。

出典：福生市教育委員会リーフレット「小学校入学前のお子さんの保護者の皆様へ」

一人一人の状況に応じた支援を進めていくために③

～発達障害の理解と対応～

6 気になる行動や反応はありませんか？

発達障害のある子どもは、コミュニケーションが苦手なため、幼稚園や小学校などの集団に入ると、さまざまな問題や困難に直面することになります。障害が理解され適切なサポートがされない、学校に行くことがストレスとなり、不登校などの二次障害になる場合もあります。

ここでは、発達障害に気付くためのポイントを紹介します。

人との関わり方について

- 一人遊びが多い、一方的でやりとりがしにくい
- おとなしすぎる、常に受動的
- おとなや年上の子、あるいは年下の子とは遊べるが、同級生とは遊べない

コミュニケーションについて

- 話は上手で難しいことを知っているが、一方的に話すことが多い
- おしゃべりだが、保育士や指導員の指示が伝わりにくい
- 話を聞かなければならない場面で離席が多い、聞いていない

イマジネーション・想像性について

- 相手にとって失礼なことや相手が傷つくことを言う
- 集団で何かしている時にボーッとしていたり、ふらふらと歩いていた
- 急な予定変更時に不安や混乱した様子が見られる

注意・集中について

- 一つのことに没頭すると話しかけても聞いていない
- 落ち着きがない、集中力がない、いつもぼんやりとしている
- 忘れ物が多い、毎日のことなのに支度や片付けができない

感覚について

- ざわざわした音に敏感で耳をふさぐ、雷や大きな音が苦手
- 靴下をいつも脱いでしまう、同じ洋服でないとダメ、手をつなぎたがらない
- 揺れているところを極端に怖がる、すき間など狭い空間を好む

運動について

- 身体がクニャクニャとしていることが多い、床に寝転がることが多い
- 極端に不器用、絵やひらがなを書く時に筆圧が弱い、食べこぼしが多い
- 運動の調整が苦手で乱暴に思われてしまう、大きすぎる声

学習について

- 話が流暢で頭の回転が速いことに比べて、作業が極端に遅い
- 難しい漢字を読むことができる一方で、簡単なひらがなが書けない
- 図鑑や本を好んで読むが、作文を書くことは苦手

情緒・感情について

- 極端な怖がり
- ささいなことでも注意されるとかっとなりやすい、思い通りにならないとパニックになる
- 一度感情が高まると、なかなか興奮がおさまらない

※発達障害がないお子さんにも、このような行動や反応が見られる場合もあります。

家庭などの慣れた場所や幼稚園・保育園などの集団の場面での行動の様子を複数の場面で観察することが重要です。